

「ゲノム編集育種を考えるネットワーク」主催 最新情報セミナー

気候変動に克つ！育種技術が切り拓く次世代コメ品種開発の最前線

気候変動による高温・干ばつなどの環境ストレスは、水稻の安定生産に深刻な影響を及ぼしています。こうした状況に対し、育種の現場では、環境ストレスに強いコメ品種の開発が加速しています。

本セミナーでは、4名の講師をお迎えし、気候変動下でも安定して収量・品質を確保できる育種技術を適用した次世代コメ品種の開発、コメの生産の現状および将来像について幅広い視点で講演いただきます。

育種を通じて、これからのコメづくりがどう変わるのか。研究者、農業者、技術者、事業者、メディア、消費者など、多様な立場の方々にとって有益な学びの場となることを目指しています。皆さまのご参加をお待ちしております。

<開催概要>

- 主催： ゲノム編集育種を考えるネットワーク
共催： 次世代育種技術研究開発プラットフォーム、日本種苗協会、(一財)バイオインダストリー協会、バイオテック情報普及会、アメリカ種苗協会
日時： 2025年8月29日(金) 15時~17時
開催方式： Zoom ウェビナー (同時通訳あり)
申込方法： 参加無料・要事前申込み
こちらのWEBサイトより、8月27日16:00までにお申し込み下さい。
https://zoom.us/webinar/register/WN_4Y2g6CbIR8e3jHzAm7fnmg
問合せ先： (一財)バイオインダストリー協会 企画部 (村山、平岡、成田)
kikaku(at)jba.or.jp((送信の際は(at)を@にして下さい)

<プログラム>

15:00-15:05 はじめに 総合司会

15:05-15:25 「高温耐性品種「にじのきらめき」の紹介」

長岡一朗氏 (農研機構 中日本農業研究センター (上越研究拠点) 水田利用研究領域作物開発グループ)
温暖化に伴って水稻玄米における白未熟粒の発生が増加が顕在化しており、高温でも白未熟粒の少ない高温耐性品種に対するニーズが非常に高まっています。今回は、農研機構が開発した高温耐性品種「にじのきらめき」について、その概要をご紹介します。

15:25-15:45 「レジリエントな収穫、上昇する海面：ALORAの高温耐性および海洋栽培用品種で米の未来を拓く」

ルーク・ヤング氏 (ALORA Innovation Inc. CEO)

気候変動が深刻化する中、日本の農業は気温上昇から農耕地の減少、塩害に至るまで、前例のない課題に直面しています。ALORAは2つの革新的な技術で農業バイオテクノロジーの飛躍的な進歩を牽引しています。高温下でも安定した収穫量が得られる高温耐性エリート米品種と淡水や化学肥料、農薬を一切使用せずに栽培できる世界初の海洋栽培米品種です。私たちのビジョンは、外洋水や沿岸水を生産的な農地へと変えることでイネの栽培域を拡大し、食料安全保障と持続可能性を確保することです。本講演では、最

新の試験結果を共有し、日本の機関や企業との連携機会について述べるとともに、日本が次世代の気候変動適応型農業の普及をリードする方法を探ります。

15:45-16:05 「これからの水稲経営の現場で求められる品種改良とは」

徳本修一氏（トゥリーアンドノーフ株式会社 代表取締役）

大離農時代を前に、特に大規模な水稲経営の現場では、更なる省力化・生産性向上への挑戦が始まっています。節水型乾田直播の実践を紹介しながら、現場の課題と期待する品種改良について、率直にお話します。

16:05-16:25 「コメにおける新規（技術）事業 国内&海外」

有馬暁澄氏（BeyondNext Ventures 株式会社 パートナー）

ゲノム編集技術は、CRISPR-Cas9をはじめとする革新的アプローチにより、生命科学分野における新規事業創出の中核技術となりつつあります。国内外のスタートアップは、疾患治療、農業改良、細胞・遺伝子治療などの応用領域で次々と登場し、投資先としても注目を集めています。本講演では、国内外の最新技術動向、事業化の現状、規制・倫理的課題、資金調達環境などを概観し、ゲノム編集を軸とした新規事業開発の可能性と将来像を、ベンチャーキャピタルの視点から検討します。

16:25-17:00 総合質疑・パネルディスカッション

ファシリテーター 高橋 宏和氏（名古屋大学 大学院生命農学研究科 准教授）

津田 麻衣氏（東洋大学 食環境科学部 准教授、ゲノム編集育種を考えるネットワーク）

以上